



農業協同組合・農業委員会 女性登用の取組事例と 推進のポイント

令和4年3月
農林水産省

目次

はじめに… P2

農林水産省からのメッセージ
「女性の力で持続可能な地域づくりを」

有識者からのメッセージ
早稲田大学 谷口真美教授「女性登用の必要性と展望」

農協・農業委員会における女性の登用に関する目標と現状

女性が活躍する農協 … P4

農協における女性の登用と活躍のポイント

女性が活躍する農協の事例

女性が活躍する農業委員会 … P23

農業委員会における女性の登用と活躍のポイント

女性が活躍する農業委員会の事例

調査にご協力いただいた方々… P40

本事例集に記載する農協、農業委員会に関するアンケート結果は、本事業で実施した以下調査に基づく。

- 「農業協同組合における女性役員登用に関するアンケート調査」
 - ・ 実施時期調査時点：2022年1月25日～2022年2月10日
 - ・ 対象者：女性役員を1人以上登用している農協
 - ・ アンケート回答数：119件
- 「農業委員会における女性委員登用に関するアンケート調査」
 - ・ 実施時期調査時点：2022年1月25日～2022年2月4日
 - ・ 対象者：全農業委員会
 - ・ アンケート回答数：1,194件

はじめに

農林水産省からのメッセージ

農林水産省経営局
就農・女性課、農地政策課、協同組織課

持続可能な地域づくりに向けて

2020年12月に閣議決定された第5次男女共同参画基本計画においては、全ての分野において「指導的地位に占める女性の割合が2020年代の可能な限り早期に30%程度となるよう目指して取組を進める。」とされています。本格的な人口減少社会を迎える中で、女性の活躍により、担い手の確保や、多様な視点による生産性の向上を通じて、地域の持続可能性につながることを期待されます。

農業分野においても、農業を支える「農業者」の集まりである「農協」と、農業生産の基盤である「農地」の適切な利用を推進する「農業委員会」に女性の視点を活かすことによって、農業の持続的な発展や地域経済の活性化につながると考えています。

3ステップで女性登用の推進を

女性登用の取組を進めている地域の中では、「女性の成り手がいない」「地域の理解が得られない」といった声も聞こえてきます。本事例集においては、女性登用の成果を上げてきた農協や農業委員会の生の声をお聞きして、女性登用を進めるために効果的な**3つのステップ（土壌づくり、仕組みづくり、人づくり）**をまとめました。また、女性が地域の農業者や消費者との架け橋となり、多様な意見を聞き取り、創意工夫を活かした活動に取り組むことにより、農業者の所得増大、農地の利用の最適化、地域の活性化等の効果があることがわかりました。

本事例集を手にとった皆様が、各ページに登場する様々な取組やメッセージを参考にし、多様性を活かした輝く地域づくりに取り組んでいただければ幸いです。

有識者からのメッセージ

人手不足を解消し、組織に新たな光を

農業においても、人手不足、少子高齢化の影響は甚大で、担い手を確保することが難しくなっています。しかし地方には地元に着住している女性がたくさんおり、農協や農業委員会など事務職に限らず、主として男性が担っている職域に参加することで、組織や地域全体に良い効果をもたらす活躍が期待できます。

先に取り組み始めるからこそ、大きな効果を得られる

「ダイバーシティと言っても都心部の企業の話で、自分の組織には関係ないし、必要が無い」という意識のままでは時代を築くチャンスを逃してしまいます。女性登用の必要性や重要性にいち早く気づき、取り組んだ組織から、良い人材を確保し、更に先進的な組織になっていくという良い循環に乗ることができ、後手に回ると良い人材の確保が難しくなってしまう。

身近なテーマから取組、成功体験を積む

まずは女性を登用するための環境づくりが必要ですが、実はその後が重要です。登用された女性が活躍しやすいテーマから取り組めるようにすると、本人も自信を得てよい経験を積んでいけます。農業分野は食という生活に密着したテーマを含んでいるので、男女両性の観点、異なる経歴を持った人材の発想が有用なはず。直売所や食育などから始めて成功体験を積み、女性だからといって特殊な職域に限定することなく、経営にも進んでいけると良いでしょう。



早稲田大学商学学院
(国際経営論)
谷口 真美 教授

1996年神戸大学大学院博士後期課程修了。ダイバーシティ経営が専門。著書に『ダイバーシティ・マネジメント 多様性をいかす組織』（白桃書房）他。

農協・農業委員会の女性登用にに関する目標と現状

- 「第5次男女共同参画基本計画」において、農協や農業委員会における女性登用の目標が設定されている。
- 農協、農業委員会の女性登用は進展しつつあるものの、現状と目標の間には大きな隔たりがあり、取組の加速が必要となっている。

農協・農業委員会における目標と現状

第5次男女共同参画基本計画（2020年12月閣議決定）における目標

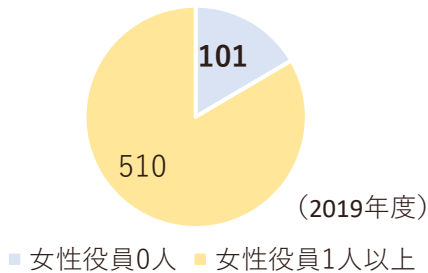
項目		成果目標（2025年度まで）
農協役員	女性役員が登用されていない組織数	0
	女性割合	10%(早期)、更に 15% を目指す
農業委員	女性農業委員が登用されていない組織数	0
	女性割合	20%(早期)、更に 30% を目指す

参考：JAグループの目標（2021年）

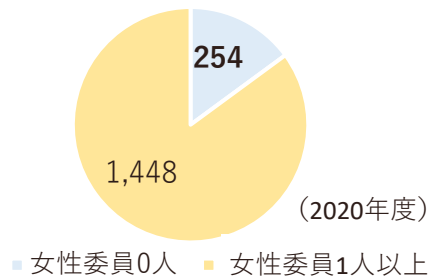
JAの①女性正組合員比率30%以上、②女性総代比率15%以上、③女性役員比率15%以上

現状

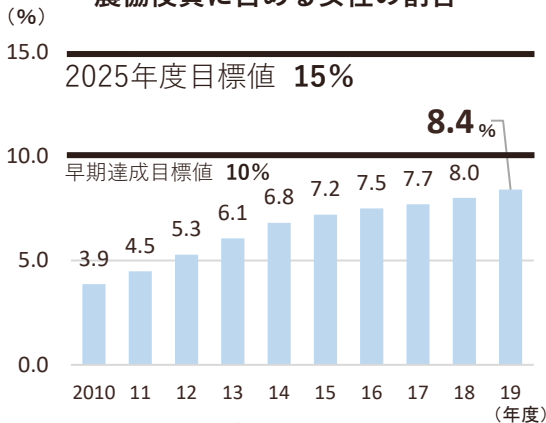
女性役員が登用されていない農協の数



女性農業委員が登用されていない農業委員会の数

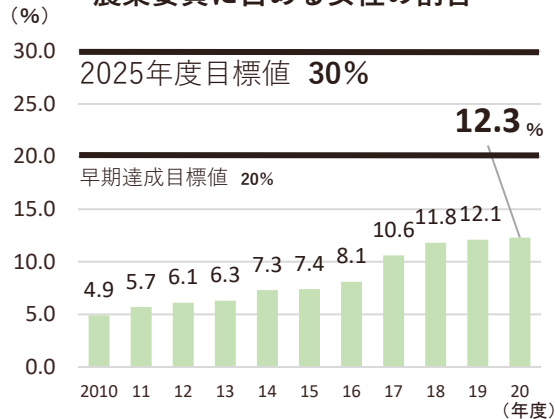


農協役員に占める女性の割合



資料：農林水産省「総合農協統計表」
注：各事業年度末時点

農業委員に占める女性の割合



資料：農林水産省「農業委員への女性の参画状況」
注：各年度とも10月1日現在